

広報

きたもと

きっと、もっと、きたも트가好きになる

4月
2016 No.938

特集面



特集 スポーツで輝く注目の2人

きたもとの若き力

サッカーU-15日本代表招集選手

女子プロゴルファー

保坂真由
ほさかまゆ(20歳)

白土大貴
しらとたいき(15歳)

動画をアップ!

YouTube
[北本市チャンネル]
 左のQRコードを読み取り
 保坂真由選手のスイング
 動画を、ぜひご覧ください!

DATA

生年月日:平成7年11月17日
 身長:162cm 体重:57kg
 日本女子プロゴルフ協会入会期
 平成26年8月1日86期生
 所属:東松山カントリークラブ
 契約:ダンロップ
 (クラブ/ボール/シューズ)
 得意クラブ:ドライバー
 (平均飛距離250ヤード)
 ゴルフスタイル:
 失敗を恐れず攻め抜く

Mayu Hosaka
 Pro Golfer



撮影取材協力:東松山カントリークラブ



Mayu
 応援よろしくお願いします!

厳しい世界で夢の賞金女王へ――



女子プロゴルファー

保坂真由

ほさかまゆ・20歳(二ツ家在住)

注目の若手プロ

保坂真由さん。北本市で生まれ育ち、若干20歳にして、今年の女子プロゴルフのレギュラーツアーにフル参戦します。

アマチュア時代には、高校生で日本女子アマチュアゴルフ選手権競技3位など輝かしい成績を残し、ナショナルチーム(日本代表選手団)にも所属。平成26年の高校卒業後、毎年約20人(合格率5〜9%程度)しか合格できない女子プロゴルフテストに一発合格を果たしました。

プロ転向後は、ステップアップツアー^{※①}で順調に経験を重ね、昨年12月に行われた、クオリファイイングトー

ナメント^{※②}で24位に入り、今年のレギュラーツアー参加資格を獲得した、今注目の若手女子プロゴルファーです。

日々の積み重ね

ゴルフを始めたきっかけは9歳の時、父、慎也さんの練習について行き、遊びで打たせてもらったことです。

「父の練習に何気なくついて行きました。そこで、練習場の社長さんが、おもちのクラブを貸してくれ、球を打たせてもらいました。それがすごく楽しかった。そこからすっかりはまってしまい、父と一緒に練習するようになりました。」

当時は振り取り、娘がゴルフを本気でやりだすとは思わなかったと慎也さ

んは話します。

「一緒に練習するようになって、1か月もたないうちに、子ども向けのゴルフ大会があったので興味半分で参加させました。当然結果は惨敗。でも、真由はすごく楽しかったようで、ゴルフを一生懸命やってみたいと言いました。こちらもお金も労力もかかることなので、本気なのかと聞く、「私は女子プロゴルファーになる。」と力強く宣言したので、じゃあ頑張ってみよう。」

ここから、市内外の協力してくれる練習場を探し、週4回程度、慎也さんや、練習場のコーチの指導のもと、小学校卒業まで練習を行いました。日々の練習の積み重ねの中で、めきめ

きと頭角を現し、小学6年生の時、全国小学生ゴルフ大会で12位タイに。この結果を受け、全国的にも注目される存在となります。

北本市立東中学校、埼玉栄高校時代は、東松山市にある東松山カントリークラブの協力のもと、週3・4回程度、実際にコースを回って練習を行い、数々の大会で好成績を残しました。「日々の練習を支えていただいた市内外の練習場、中学高校と無料でラウンド練習をさせていただいた東松山カントリークラブさん、クラブ、ボールなどを提供していただいたメーカーさんなど、たくさんの方の支えがあって、今の私があります。個人競技の分、皆さんの支えが本当に大きな力となります。感謝を忘れず、良い結果を出して、少しでも恩返ししたいです。」

厳しいプロの世界

一見華やかに見えるプロゴルファーの世界。しかし現実には非常に厳しい世界です。女子プロゴルファーは1000人程度いるといわれ、その中で年間37試合あるレギュラーツアーにフル参戦できるのは、85人ほど。レギュラーツアーに参加するためにはまず参加権をかけた熾烈な争いを突破しなくてはなりません。

そのうえ、レギュラーツアーに参加しても、賞金を手にできるのは各試合の予選を通過した上位約50人。会場

Profile

北本市生まれ。父の影響を受け、9歳からゴルフを始める。アマチュア時代には、平成22年に行われた日本ジュニア選手権競技(女子12〜14歳の部)で2位、平成24年世界ジュニアゴルフ選手権9位・全日本女子ハブリックアマチュアゴルフ選手権優勝・日本女子アマチュアゴルフ選手権競技3位など輝かしい成績を残す。北本市立東中学校3年生から埼玉栄高校3年生までは、日本ゴルフ協会のナショナルチーム(日本代表選手団)に在籍。平成26年に高校卒業後、その年の夏に行われた最初のプロテストに一発合格。平成27年は、新人やレギュラーツアーの資格のない選手たちで戦うステップアップツアーに参戦。12月に行われた、クオリファイイングトーナメントで24位に入り、平成28年のレギュラーツアー参加資格を獲得した。

プロフィール等の内容は平成28年2月時点のものです。

プロ初優勝、賞金シード獲得へ

までの移動費用や宿泊費は年間700万から800万円かかるといわれ、プロゴルファーになっても賞金だけで生活できるのはほんの一握りです。

そんな厳しい世界で戦う真由さん。昨年の12月、レギュラーツアーフル参戦の権利をかけた、クオリファイイングトーナメントで24位に入り、35位程度までに与えられるフル参戦の権利を得ました。「参戦権を得られ、本当に嬉しかった。プロテストの合格もすこうれしかったけど、その時はほっとした気持ちが強かった。今回は、ようやくプロゴルファーとして本当のスタートラインに立てた気がしました。」

3月3日から開催されたダイキンオーキッドレディスゴルフトーナメント(沖縄県琉球ゴルフ倶楽部)を皮切りに、翌週の2試合目は高知、翌々週の3試合目は鹿児島…と全国をまたにかけ、毎週、ほぼ休みなく11月下旬まで37試合の戦いが始まります。

「今年はいよいよトッププロと1年を通して勝負することができます。夢である、賞金女王、そして地元埼玉開催^{※③}となる東京オリンピック参戦に向けて、まずはプロ初優勝と賞金シード^{※④}獲得をめざして頑張ります。皆さんの応援が私の力になります。応援よろしくお願ひします。」

※③ 2020年東京オリンピックのゴルフ競技は埼玉県川越市の霞ヶ関カントリー倶楽部での開催が予定されている。
 ※④ 賞金ランキング50位以内に入ると、来年のレギュラーツアーへの参戦権(シード権)が得られる。

※① 日本女子プロゴルフ協会のプロゴルファー登録選手のうち、新人を含むレギュラーツアーの出場資格がない選手を対象として行われる試合。
 ※② 一般にプロゴルフツアーにおいてツアー本戦へのシード権を持たないプロゴルファーが、シード権を得るために参加する予選会のこと。



日本代表を言い渡された際は、武者震いしたという。全国トップクラスの選手との練習を通して、より一層の成長をめざす。

夢は浦和レッズ加入と 東京オリンピック出場

「今の夢は、浦和レッズとプロ契約を結び、そして、2020年の東京オリンピックにサッカー日本代表として出場することです。オリンピックに出場して、北本市の皆さんに少しでも喜んでもらえたら嬉しいです。」
そう話すのは、北本市在住、今年3月まで北本市立東中学校に通った白土大貴くん。昨年は、全国トップレベルのサッカージュニアユースチームである浦和レッズジュニアユースのキャプテンを務め、U15(アンダー15)日本代表にも招集された、今後の活躍が期待されるサッカー選手です。

日々、全国トップクラスの仲間たちと

浦和レッズジュニアユースの練習は週5回。平日は学校終業後に、さいたま市与野の八王子グラウンドまで通いました。4月からはジュニアユースの一つ上のカテゴリーである浦和レッズユースへ。定期的な休みはなくなり、今まで以上に練習漬けの日々が待っています。
昨年は日本代表にも3回招集され、スペイン・バルセロナ下部組織出身で話題となった久保建英選手などとともに練習や試合を行いました。ジュニアユースキャプテン、日本代

表招集と、同世代の中で、全国トップクラスの選手となった白土君。しかし、ここまでの道のりは平坦なものではありませんでした。

2年連続の不合格

兄の影響でサッカーを始めたのは幼稚園生の時。暇をみつけては、公園でボールを蹴る、根っからのサッカー少年でした。しかし、小さい頃は日本代表として呼んでもらえるほど成長できるとは思っていなかったそうです。
大きな成長のきっかけとなったのは大阪府に住んでいた小学校4・5年生の時、大阪府豊能地区^{※①}のトレーニングセンター^{※②}の試験に、2年連続で不合格になった経験です。

「サッカーだけは誰にも負けたくないと思っていました。だから、不合格は悔しかった。特に5年生の時は、必ず合格できると思っていたので、本当に悔しかったのを覚えています。次は必ず合格したいという思いから、自分には何が足りないのか、常に意識しながら、練習、試合を行うようになりました。当時、不合格の理由は周りに合わせるプレーに徹してしまい、自分をアピールする力が欠けていたと考えました。試験には審査員に目立つプレーも必要です。そこから練習では、個人で突破できるドリブル練習を重点的に行うようになりました。」



浦和レッズのエンブレムを身に着け、練習場までの電車移動などを行っている。浦和レッズの名に恥じない行動を日頃から意識している。

小学生の頃、少年団のコーチとして、大貴君を見守っていた父、秀樹さんも息子の成長を感じていました。
「よく考えてプレーするようにになりました。大阪時代のチームは同学年が9人程度しかおらず、決して強いチームではありませんでした。個人の力の差もばらばら。そんな中、うまくチームを回していくためには、パスのスピード、ボールをもらう位置など、仲間一人一人に合わせたプレーが必要となってきます。それができるようになってきたのが5年生の頃でした。練習も、漠然と行わず、今日はパスを重点的に、今日はドリブルを重点的になど、毎回テーマを決めて練習していました。」
こうした目標に向けた努力、意識の変化は小学6年生の時に実を結びます。豊能地区のトレーニングセンター^{※②}の上位カテゴリーである、大阪府のトレーニングセンターに合格を果たしました。

※①【大阪府豊能地区】…3市2町(豊中市・池田市・箕面市・豊能町・能勢町)。
※②【トレーニングセンター】…各地域から選抜された選手たちに、より良いトレーニング環境を与える強化育成の場。

悔しさの向こうに

白土大貴

U-15日本代表招集選手
浦和レッズジュニアユースキャプテン(平成27年)

しらとだいき・15歳(中丸在住)

Profile

神奈川県相模原市生まれ。2歳から小学1年生まで北本市、小学2年生から6年生の夏まで大阪府豊中市、以降、現在まで北本市で暮らす。兄の影響を受け、北本中央幼稚園在籍時に、幼稚園の課外教室JACPA(ジャクパ)サッカークラブでサッカーを始める。小学生時代は北本市では北本東サッカークラブ、豊中市ではアミーゴとどろぎFCに在籍。中学校進学と同時に浦和レッズジュニアユースに加入。中学3年生時にはキャプテンを務める。平成27年には日本代表に招集される。平成28年4月より浦和レッズユース加入予定。

プロフィール等の内容は平成28年2月時点のものです。

僕はエリートではない

通常、日本代表に招集される選手は、小さい頃からプロコーチなどが教えるサッカースクールに通い、常に注目を受けてきた選手がほとんど。そんな中、白土くんは街のサッカー少年団から日本代表招集選手までのぼりつめた珍しい存在です。

「僕はサッカーエリートではありません。また、身体能力が特別優れているわけでもありません。それでも日本代表に招集されるまでになれたのは、誰にも負けないという向上心と、父親、監督・コーチ、レベルの高い仲間たち、関わってくれた皆さんのおかげだと思います。誰でも努力すれば、プロ選手に、日本代表になれる可能性があるということをみせたいです。」

気持ちを見せるプレーで感動を与えたい

両足とも正確なキック、広い視野、相手選手への素早いプレス、また、声出しなど気持ちを前面に出したプレーが特徴の白土くん。今後どのような選手になりたいか聞くと、「気持ちをみせるプレーで感動を与える選手になりたい」という答えが返ってきました。

「浦和レッズジュニアユースでの最後の試合※ガンバ大阪ジュニアユースに0対4で負けてしまいました。それでも最

後まであきらめず、懸命に戦い抜いた姿を見て、保護者やファンの皆さんから感動したよと言ってもらえ、嬉しかった。今後も見る人に感動を与える選手になりたいです。」

悔しさの向かい方

最後の試合後、グラウンド上には、悔し涙を流す白土くんの姿がありました。ここで流した涙を無駄にするつもりはありません。

「ガンバ戦では、自分の体格的な弱さをつかれ敗れてしまいました。まだまだ大きい選手に当たり負けしてしまうことが多い。今後は食事の内容等にも気を使い、プロで活躍できる体づくりを徹底的に行います。そして、憧れの選手である浦和レッズの阿部選手のように、守備的なポジションであればどこでもこなせる選手になりたいです。」

セレクションでの不合格、大事な試合での大敗。悔しい経験にしても、それを無駄にせず、何が自分に足りなかったのか、真剣に考え、克服する努力を怠りません。

彼の夢であるサッカー日本代表。100万人以上いるといわれる日本のサッカー人口の中で日本代表になれるのは約20人です。4月からは浦和レッズユースでの活動が始まります。この悔しさを胸に、大きな夢に向け、新たな一歩を踏み出します。

※高円宮杯第27回全日本ユース(U-15)サッカー選手権大会2回戦

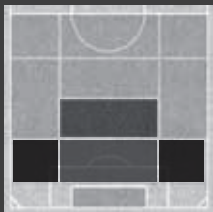
DATA

生年月日:平成12年8月21日

利き足:右

身長:162cm 体重:58kg

日本代表招集時のポジションはサイドバックだが、守備的なポジションはどこでもこなす。



Daiki Shirato

SIDE BACK



敗戦の後、メンバーと流したあの時の涙と悔しさはずっと忘れない。彼の誰にも負けない向上心は「失敗から学んだ経験」が原動力となっているのだろう。



キャプテンとして、大きな声を出し、意欲あふれるプレーでチームを引っ張る。

北本市のスポーツ団体情報等は
市ホームページ「スポーツ」をご覧ください。



または、4月1日以降に
スポーツ健康課へ
お問い合わせください。

スポーツ健康課直通
☎594-5568

次号の特集は

「平成28年度予算」「きたもとのスポーツで活躍する人2」を予定しています。